
そんな出会いで恋をしたかった。

たこぴー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そんな出会いで恋をしたかった。

【Zコード】

N9215Y

【作者名】

たこぴー

【あらすじ】

僕は恋をしないと決めた……、そのはずだった。でもあの日から僕は恋をしたのかもしれない。

プロローグ（前書き）

こんばんは、最近もう一つの小説が上げるのが遅れてこるので、もともと書いていた小説をあげてみます。

プロローグ

8年前：

「二人の子供が話し合っている、そのうちの一人は僕だった。
「ねえ、約束だよ。ずっと一緒にいてね。」

今となつてはあだ名しか思い出せない少女は言った。

「うん！ずっと一緒にいようね！」

まだ幼い僕は笑顔で返事をした。

「約束だよ。」

少女はピンと小指をたてた手を僕に向けた。

「うん。」

僕は自分の手を出してその小指を少女の小指に絡めた。

「指切りげんまん、嘘ついたら針千本の一ます指切つた！」「

「これでずっと一緒に望む！」

「そうだね、このちゃん！」

けどこの約束は僕く消えた。

その日の夕方はいつも以上に騒がしかつた。

けたましいサイレンの音、野次馬の声が僕の周りで聞こえた。

「女の子が轢かれたらしいわよ。」

「あら本当に、まったく、かわいそうとしか言いようがないわね。」

「ねえ、あそこにいる子轢かれた子の知り合いかしら？」

周りで僕の事を言つている人もいた、なかには心配して話しかけてきた人もいた、けどそのときの僕は何の反応も示さなかつた。

なぜなら、

「うつ…、ひつ…。ああああん！」

泣いていたから。

そのとき自分の一番大切な人がいなくなつてしまい僕の心の中に
はとても大きな喪失感ができた。そしてその喪失感はこのちゃ
ん以外の女の子と恋をしないという決意で埋めた。

一ヶ月後このちゃんの家族は引っ越しした。

ジリリリリ！とつのさく目覚まし時計が鳴り響いた。

「朝から嫌な事を思い出したな。」

僕は咳きながらベッドから出て、支度をして入学式に向かった。

プロローグ（後書き）

こんにちは、元から書いていたやつを上げました。
応援していただけすると嬉しいです。
できたらもう一つの作品、WSP 二人の能力者もよろしくお願ひ
します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9215y/>

そんな出会いで恋をしたかった。

2011年11月27日16時47分発行